令和５年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　朽網　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月１８日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

⑴　全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

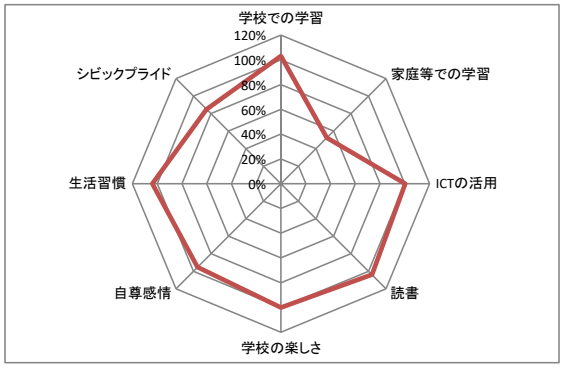
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

⑵　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的には、全国平均をわずかに下回る結果となっている。話すこと聞くことに関する内容の問題では正答率が高かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心をとらえて聞くことができている。	
	努力が必要な問題	関係を表す語句についての理解を問う問題、目的に応じて必要な情報を見つける問題、学年配当漢字を正しく使う問題で課題が見られた。	

算数	全体的な傾向や特徴など	全体的には、本市平均を上回ったものの、全国平均は下回る結果となった。特に、図形や比例、割合に関する問での正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「数と計算」領域では概ね平均を上回っている。	
	努力が必要な問題	「図形」領域では、全ての問題で平均を下回っており、特に図形の意味や性質の理解を問う問題で正答率が低かった。	

4．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・学校での学習については、全国の結果を上回る肯定的な回答が得られた質問が多く、意欲的に学習に取り組むことができている。 ・ICTの活用について、昨年度より肯定的な回答が伸び、全国の結果も上回った。今後は、授業時間以外でのICT活用を推進していく。 ・昨年度から課題であった家庭等での学習に関する項目では、今年度さらに下回る結果となった。特に、土日を含め、家庭での学習時間が１時間を下回っている。宿題や学校から出された課題については真面目に取り組むことができているが、進んで自主学習に取り組む割合が少ないと考えられる。

5．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

・「朽網スタンダード」の授業の定着を図り、学校全体で「わかる授業づくり」を目指す。
・基礎的・基本的な学力の定着（特に学年配当漢字を正しく覚える）を図るために、ドリルアプリを活用し、補充学習に取り組むようにする。

②　家庭生活習慣等に関する取組

・学年ごとの家庭学習の目安時間（低学年２０分以上、中学年４０分以上、高学年６０分以上）を再度示すと同時に、自主学習コンテストの開催を継続し、意欲的に家庭学習に取り組むことができるようにする。
・学校だよりや学年・学級通信等で、家庭学習の重要性について知らせていくことで、保護者への啓発を図る。